社内ディレクトリとパーソナル ディレクトリのセットアップ

- LDAP 設定 （1 ページ）
- BroadSoft 設定の構成 （9 ページ）
- パーソナル ディレクトリを設定する （15 ページ）
- 名前の逆引きルックアップを有効にする （15 ページ）

LDAP 設定

Cisco IP 電話はLightweightディレクトリアクセスプロトコル（LDAP）v3 に対応しています。LDAP 社内ディレクトリ検索では、名前、電話番号、またはその両方を指定した LDAP ディレクトリで検索できます。Microsoft Active Directory 2003 や OpenLDAP ベースのデータベースなどの、LDAP ベースのディレクトリがサポートされています。

ユーザは IP フォンの [ディレクトリ（Directory）] メニューから LDAP にアクセスします。LDAP 検索では、最大 20 のレコードが返されます。

このセクションの手順では、LDAP サーバ (OpenLDAP または Microsoft Active Directory サーバ 2003 など) がインストールされていることを前提としています。

LDAP 社内ディレクトリ検索の準備

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。電話機 ウェブインターフェイスへのアクセスを参照してください。

手順

ステップ 1 **[音声（Voice）] > [システム（System）]** を選択します。

ステップ 2 **[IPv4設定（IPv4 Settings）]**セクションで、**[プライマリDNS（Primary DNS）]** フィールドに DNS サーバの IP アドレスを入力します。

この手順は、認証が MD5 に設定された Active Directory を使用している場合にのみ必要です。

次の形式で文字列を入力すると、設定ファイルでこのパラメータを設定できます。

```
<Primary_DNS ua="na">10.74.2.7</Primary_DNS>
```

ステップ 3 [オプションのネットワーク設定（Optional Network Configuration）] セクションの [ドメイン（Domain）] フィールドに LDAP ドメインを入力します。

この手順は、認証が MD5 に設定された Active Directory を使用している場合にのみ必要です。

一部のサイトでは、DNS を内部で導入せず、代わりに Active Directory 2003 を使用することがあります。その場合はプライマリ DNS のアドレスと LDAP ドメインを入力する必要はありません。ただし、Active Directory 2003 では認証が単純認証方式に制限されます。

次の形式で文字列を入力することによって、設定ファイルでこのパラメータを設定することもできます。

```
<Domain ua="na">LDAPdomainname.com</Domain>
```

ステップ 4 [電話機（Phone）] タブをクリックします。

ステップ 5 LDAP ディレクトリのパラメータ （2 ページ）の説明に従って、LDAP フィールドを設定します。

ステップ 6 [すべての変更の送信（Submit All Changes）] をクリックします。

LDAP ディレクトリのパラメータ

次の表は、電話機のウェブインターフェイスの**音声** > **電話**タブにある**LDAP**セクションにおけるLDAPディレクトリパラメータの機能と使用方法を定義しています。また、パラメータを設定するために、XML コードを含む電話設定ファイルに追加される文字列のシンタックスも定義します。

表 *1 : LDAP*ディレクトリのパラメータ

パラメータ	説明
[LDAPディレクトリ有効（LDAP Dir Enable）]	LDAP ディレクトリを有効または無効にします。 次のいずれかを実行します。 • XML (cfg.xml)を使用した電話機の設定ファイルでは、次の形式で文字列を入力します。 `<LDAP_Dir_Enable ua="na">Yes</LDAP_Dir_Enable>` • 電話機のウェブインターフェイスでは、このフィールドを**[はい（Yes）]**または**[いいえ（No）]** に設定して、LDAP ディレクトリを有効または無効にします。 有効値: はい（Yes）|いいえ（No） デフォルト : [いいえ（No）]
[社内ディレクトリ名（Corp Dir Name）]	「社内ディレクトリ」など、自由形式のテキストで名前を入力します。 次のいずれかを実行します。 • XML (cfg.xml)を使用した電話機の設定ファイルでは、次の形式で文字列を入力します。 `<LDAP_Corp_Dir_Name ua="na">Coprorate Directory</LDAP_Corp_Dir_Name>` • 電話機のウェブインターフェイスで、社内ディレクトリの名前を入力します。 有効値：63 文字以下のテキスト文字列 デフォルト：空
サーバ（Server）	LDAPサーバの完全修飾ドメイン名（FQDN）またはIPアドレスを入力します。 MD5 認証方式が使用されている場合は、LDAP サーバのホスト名を入力します。 次のいずれかを実行します。 • XML (cfg.xml)を使用した電話機の設定ファイルでは、次の形式で文字列を入力します。 `<LDAP_Server ua="na">ldapserver.com</LDAP_Server>` • 電話のウェブインターフェイスで、LDAPサーバーのIPアドレスまたはホスト名を入力します。 デフォルト：空

パラメータ	説明

[検索ベース（Search Base）]	検索するディレクトリ ツリーで開始点を指定します。ドメイン コンポーネント（dc）はカンマで区切ります。例：
	`dc=cv2bu,dc=com`
	次のいずれかを実行します。
	• XML (cfg.xml)を使用した電話機の設定ファイルでは、次の形式で文字列を入力します。
	`<LDAP_Search_Base ua="na">dc=cv2bu,dc=com</LDAP_Search_Base>`
	• 電話機のウェブインターフェイスで、検索ベースを入力します。
	デフォルト：空

[クライアントDN（Client DN）]	識別名ドメイン コンポーネント（dc）を入力します。次に例を示します。
	`dc=cv2bu,dc=com`
	デフォルトの Active Directory スキーマ（Name(cn)->Users->Domain）を使用している場合、クライアント DN の例は次のようになります。
	`cn="David Lee",dc=users,dc=cv2bu,dc=com`
	`cn="David Lee",dc=cv2bu,dc=com`
	username@domain は、Windows サーバのクライアント DN 形式です。
	例：DavidLee@cv2bu.com
	次のいずれかを実行します。
	• XML (cfg.xml)を使用した電話機の設定ファイルでは、次の形式で文字列を入力します。
	`<LDAP_Client_DN ua="na">dc=cv2bu,dc=com</LDAP_Client_DN>`
	• 電話機のウェブインターフェイスで、クライアントドメイン名を入力します。
	デフォルト：空

User Name（ユーザ名）	LDAP サーバに対するクレデンシャルを持つユーザのユーザ名を入力します。 次のいずれかを実行します。 • XML (cfg.xml)を使用した電話機の設定ファイルでは、次の形式で文字列を入力します。 `<LDAP_User_Name ua="na">dc=cv2bu,dc=com</LDAP_User_Name>` • 電話機のウェブインターフェイスで、ユーザ名を入力します。 デフォルト：空

パラメータ	説明
パスワード	LDAP ユーザ名のパスワードを入力します。このフィールドに入力したパスワードは、設定ファイル (cfg) に次のように表示されます。 `<!-- <LDAP_Password ua="na">**********</LDAP_Password >-->` デフォルト：空
[認証方式（Auth Method）]	LDAP サーバに必要な認証方式を選択します。選択肢は次のとおりです。 • [なし（None）]：クライアントとサーバ間では認証は使用されません。 • [シンプル（Simple）]：クライアントから LDAP サーバに完全修飾ドメイン名とパスワードが送信されます。セキュリティの問題が生じる可能性があります。 • [Digest-MD5]：LDAP サーバからクライアントに認証オプションとトークンが送信されます。クライアントから暗号化された応答が返され、サーバによって復号化されて検証されます。 次のいずれかを実行します。 • XML (cfg.xml)を使用した電話機の設定ファイルでは、次の形式で文字列を入力します。 `<LDAP_Auth_Method ua="na">Simple</LDAP_Auth_Method>` • 電話のウェブインターフェイスで、認証方法を選択します。 デフォルト：なし

パラメータ	説明
[姓フィルタ（Last Name Filter）]	このフィールドを使用して、ユーザが連絡先を検索するときに、姓または名（sn）に基づいて電話機が検索を実行する方法を指定します。 例： **sn**：（**sn = $ VALUE ***）入力した検索文字列で始まる姓をすべて検索するように電話機に指示します。 **sn**：（**sn = * $ VALUE ***）入力された検索文字列が姓のどこかにあるすべての姓を検索するように電話機に指示します。この方法はより包括的で、より多くの検索結果を取得します。この方法は、Broadsoft ディレクトリや電話機のユーザの個人アドレス帳など、他のディレクトリでの検索方法と一致しています。 次のいずれかを実行します。 • XML (cfg.xml)を使用した電話機の設定ファイルでは、次の形式で文字列を入力します。 `<LDAP_Last_Name_Filter ua="na">sn:(sn=L*)</LDAP_Last_Name_Filter>` • 電話機のウェブインターフェイスで、フィルタを入力します。 デフォルト：空
[名フィルタ（Last Name Filter）]	ユーザが連絡先を検索するときに、電話がファーストネームまたは一般名（cn）に基づいて検索を実行する方法を指定するには、このフィールドを使用します。 例： **cn**：（**cn = $ VALUE ***）入力した検索文字列で始まる名前をすべて検索するように電話に指示します。 **cn**：（**cn = * $ VALUE ***）入力した検索文字列が名前のどこかにあるすべての名前を検索するように電話機に指示します。この方法はより包括的で、より多くの検索結果を取得します。この方法は、Broadsoft ディレクトリや電話機のユーザの個人アドレス帳など、他のディレクトリでの検索方法と一致しています。 次のいずれかを実行します。 • XML (cfg.xml)を使用した電話機の設定ファイルでは、次の形式で文字列を入力します。 `<LDAP_First_Name_Filter ua="na">cn:(cn=John*)</LDAP_First_Name_Filter>` • 電話機のウェブインターフェイスで、フィルタを入力します。 デフォルト：空

パラメータ	説明
[検索項目3（Search Item 3）]	追加のカスタマイズされた検索項目。不要な場合は空白にできます。 次のいずれかを実行します。 • XML (cfg.xml)を使用した電話機の設定ファイルでは、次の形式で文字列を入力します。 `<LDAP_Search_Item_3 ua="na">search_item</LDAP_Search_Item_3>` • 電話機のウェブインターフェイスで、検索する追加項目の名前を入力します。 デフォルト：空
[検索項目3フィルタ（Search Item 3 Filter）]	検索対象項目のカスタマイズされたフィルタ。不要な場合は空白にできます。 次のいずれかを実行します。 • XML (cfg.xml)を使用した電話機の設定ファイルでは、次の形式で文字列を入力します。 `<LDAP_Item_3_Filter ua="na">cn:(cn=John*)</LDAP_Item_3_Filter>` • 電話機のウェブインターフェイスで、フィルタを入力します。 デフォルト：空
[検索項目4（Search Item 4）]	追加のカスタマイズされた検索項目。不要な場合は空白にできます。 次のいずれかを実行します。 • XML (cfg.xml)を使用した電話機の設定ファイルでは、次の形式で文字列を入力します。 `<LDAP_Search_Item_4 ua="na">search_item</LDAP_Search_Item_4>` • 電話機のウェブインターフェイスで、検索する追加項目の名前を入力します。 デフォルト：空
[検索項目4フィルタ（Search Item 4 Filter）]	検索対象項目のカスタマイズされたフィルタ。不要な場合は空白にできます。 次のいずれかを実行します。 • XML (cfg.xml)を使用した電話機の設定ファイルでは、次の形式で文字列を入力します。 `<LDAP_Item_4_Filter ua="na">cn:(cn=John*)</LDAP_Item_4_Filter>` • 電話機のウェブインターフェイスで、フィルタを入力します。 デフォルト：空

パラメータ	説明
[表示属性（Display Attrs）]	電話機に表示される LDAP 結果のフォーマット。 • a：属性名 • cn：共通名 • sn：名字（姓） • telephoneNumber：電話番号 • n：表示名 例えば、n=Phone とすると、詳細ソフトキーを押したときに LDAP クエリ結果の電話番号の先頭に「Phone:」と表示されます。 • t：タイプ t=p、つまり、t が電話番号の場合は、取得した番号をダイヤルすることができます。ダイヤル可能な番号は 1 つだけです。2 つの番号をダイヤル可能な番号として定義した場合、最初の番号だけが使用されます。例、a=ipPhone, t=p; a=mobile, t=p; この例では、IP 電話 番号だけがダイヤル可能で、携帯電話番号は無視されます。 • p：電話番号 t=p のように p がタイプ属性に割り当てられる場合は、検索された番号を電話機からダイヤルすることができます。 例、 a=givenName,n=firstname;a=sn,n=lastname;a=cn,n=cn;a=telephoneNumber,n=tele,t=p 次のいずれかを実行します。 • XML (cfg.xml)を使用した電話機の設定ファイルでは、次の形式で文字列を入力します。 <LDAP_Display_Attrs ua="na">a=sn,n=lastname;a=cn,n=cn;a=telephoneNumber,n=tele,t=p</LDAP_Display_Attrs> • 電話機のウェブインターフェイスで、表示する属性を入力します。 デフォルト：空

パラメータ	説明
[番号マッピング（Number Mapping）]	LDAP番号マッピングを使用すれば、LDAPサーバから検索された番号を操作することができます。たとえば、ダイヤルする前に 9 を入力する必要があるダイヤル プランの場合は、番号に 9 を追加することができます。プレフィックス 9 を追加するには、[LDAP番号マッピング（LDAP Number Mapping）] フィールドに（<:9xx.>）を追加します。たとえば、555 1212 は 9555 1212 になります。 この方式で番号を操作しない場合、ユーザは**ダイヤル編集**機能を使用して、ダイヤルアウトする前に番号を編集できます。 使用しない場合は、空白にします。 次のいずれかを実行します。 • XML (cfg.xml)を使用した電話機の設定ファイルでは、次の形式で文字列を入力します。 `<LDAP_Number_Mapping ua="na"><:9xx.></LDAP_Number_Mapping>` • 電話機のウェブインターフェイスで、マッピング番号を入力します。 デフォルト：空

BroadSoft 設定の構成

BroadSoft ディレクトリ サービスを使用すると、個人、グループ、または会社の連絡先を検索して表示することができます。このアプリケーション機能は、BroadSoft の Extended Services Interface（XSI）を使用します。

セキュリティを強化するために、電話機のファームウェアがホストサーバとディレクトリ名の入力フィールドにアクセス制限をかけます。

電話機は、次の 2 種類の XSI 認証方式を使用します。

- ユーザ ログイン クレデンシャル：電話機は、XSI ユーザ ID とパスワードを使用します。
- SIP クレデンシャル：電話機に登録されている SIP アカウントの登録名とパスワード。この方式では、認証のために電話機で XSI ユーザ ID とともに SIP 認証クレデンシャルを使用することができます。

手順

ステップ 1 **[音声（Voice）] > [電話（Phone）]** を選択します。

ステップ 2 [XSIサービス（XSI Service）] セクションで、[ディレクトリ有効（Directory Enable）] ドロップダウン リスト ボックスから [はい（Yes）] を選択します。

次の形式で文字列を入力することによって、設定ファイル (cfg .xml) でこのパラメータを設定することもできます。

```
<Directory_Enable ua="na">Yes</Directory_Enable>
```

ステップ 3 XSI 電話サービスのパラメータ （10 ページ）の説明に従って、フィールドを設定します。

ステップ 4 [すべての変更の送信（Submit All Changes）] をクリックします。

XSI 電話サービスのパラメータ

次の表は、電話機のウェブインターフェイスの**音声** > **電話**タブにある**XSI 電話サービス**セクションにおける、XSIディレクトリパラメータの機能と使用方法を定義しています。また、パラメータを設定するために、XML コードを使用した電話設定ファイルに追加される文字列のシンタックスも定義します。

表 *2: XSI* 電話サービスのパラメータ

パラメータ	説明

[XSIホストサーバ（XSI Host Server）]	サーバの名前を次のように入力します; 例、
	`xsi.iop1.broadworks.net`
	（注） XSI ホストサーバは、デフォルトで http プロトコルを使用します。HTTPS を介した XSI を有効にするには、サーバで `https://` を指定できます。
	次のいずれかを実行します。
	• XML (cfg.xml)を使用した電話機の設定ファイルでは、次の形式で文字列を入力します。
	`<XSI_Host_Server ua="na">https://xsi.iop1.broadworks.net</XSI_Host_Server>`
	• 電話機のウェブインターフェイスで、使用する XSI サーバを入力します。
	デフォルト：空

パラメータ	説明
[XSI認証タイプ（XSI Authentication Type）]	XSI の認証タイプを決定します。XSI ID とパスワードによるアクセスを認証するには、**[ログインクレデンシャル（Login Credentials）]** を選択します。電話機に登録されてる SIP アカウントの登録ユーザ ID とパスワードによるアクセスを認証するには、**[SIPクレデンシャル（SIP Credentials）]** を選択します。 次のいずれかを実行します。 • XML (cfg.xml)を使用した電話機の設定ファイルでは、次の形式で文字列を入力します。 `<XSI_Authentication_Type ua="na">SIP Credentials</XSI_Authentication_Type>` • 電話機のウェブインターフェイスで、XSI サービスの認証タイプを指定します。 有効値: ログイン情報 |SIP ログイン情報 デフォルト : [ログインクレデンシャル（Login Credentials）]

パラメータ	説明
[ログイン ユーザ ID（Login User ID）]	電話機のユーザの BroadSoft ユーザ ID（例：johndoe@xdp.broadsoft.com）。 XSI 認証タイプに対して **[ログインクレデンシャル（Login Credentials）]**または **[SIPクレデンシャル（SIP Credentials）]** を選択する場合、SIP 認証 ID を入力します。 SIP 認証 ID を **[SIPクレデンシャル（SIP Credentials）]** として選択する場合、ログイン ユーザ ID を入力する必要があります。ログイン ユーザ ID がない場合、BroadSoft ディレクトリは、電話帳リストの下に表示されません。 次のいずれかを実行します。 • XML (cfg.xml)を使用した電話機の設定ファイルでは、次の形式で文字列を入力します。 `<Login_User_ID ua="na">username</Login_User_ID>` • 電話機のウェブインターフェイスで、XSI サーバへのアクセスを認証するために使用するユーザ名を入力します。 デフォルト：空
[ログインパスワード（Login Password）]	ユーザ ID に関連付けられている英数字パスワード。 XSI 認証タイプに対して [ログインクレデンシャル（Login Credentials）] を選択する場合、ログイン パスワードを入力します。 デフォルト：空

パラメータ	説明
[SIP認証ID（SIP Auth ID）]	電話機に登録されている SIP アカウントの登録ユーザ ID。 XSI 認証タイプに対して [SIPクレデンシャル（SIP Credentials）] を選択する場合、SIP 認証 ID を入力します。 次のいずれかを実行します。 • XML (cfg.xml)を使用した電話機の設定ファイルでは、次の形式で文字列を入力します。 `<SIP_Auth_ID ua="na">username</SIP_Auth_ID>` • 電話機のウェブインターフェイスで、XSI サーバへのアクセスを認証するために使用するユーザ名を入力します。 デフォルト：空
[SIPパスワード（SIP Password）]	電話機に登録されている SIP アカウントのパスワード。 XSI 認証タイプに対して [SIPクレデンシャル（SIP Credentials）] を選択する場合、SIP パスワードを入力します。
[ディレクトリ有効（Directory Enable）]	電話機のユーザに対して BroadSoft ディレクトリを有効にします。ディレクトリを有効にする場合は **[はい（Yes）]** を選択し、無効にする場合は **[いいえ（No）]** を選択します。 次のいずれかを実行します。 • XML (cfg.xml)を使用した電話機の設定ファイルでは、次の形式で文字列を入力します。 `<Directory_Enable ua="na">Yes</Directory_Enable>` • 電話機のウェブインターフェイスで、このフィールドを**[はい (Yes)]** に設定して、BroadSoft ディレクトリを有効にします。 有効値: [はい（Yes）]	[いいえ（No）] デフォルト：[いいえ（No）]

パラメータ	説明
[ディレクトリ名（Directory Name）]	ディレクトリの名前。ディレクトリの選択肢として電話機に表示されます。 次のいずれかを実行します。 • XML (cfg.xml)を使用した電話機の設定ファイルでは、次の形式で文字列を入力します。 `<Directory_Name ua="na">DirName</Directory_Name>` • 電話機のウェブインターフェイスで、電話機に表示するBroadSoftディレクトリの名前を入力します。 デフォルト：空
[ディレクトリタイプ（Directory Type）]	BroadSoft ディレクトリのタイプを選択します。 [企業（Enterprise）]：姓、名、ユーザまたはグループ ID、電話番号、内線番号、部門、または電子メール アドレスで検索できます。 [グループ（Group）]：姓、名、ユーザ ID、電話番号、内線番号、部門、または電子メールアドレスで検索できます。 [個人（Personal）]：姓、名、または電話番号で検索できます。 次のいずれかを実行します。 • XML (cfg.xml)を使用した電話機の設定ファイルでは、次の形式で文字列を入力します。 `<Directory_Type ua="na">Enterprise</Directory_Type>` • 電話機のウェブインターフェイスで、Broadsoft ディレクトリのタイプを指定します。 有効値：企業/グループ/個人（Enterprise/Group/Personal） デフォルト：[企業（Enterprise）]

パーソナル ディレクトリを設定する

電話機のユーザは、ウェブインターフェイスから、または電話機の**連絡先**>**個人用アドレス帳**メニューから、パーソナルディレクトリを設定できます。設定ファイル (cfg .xml) ではパーソナルディレクトリのセットアップができません。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。電話機 ウェブインターフェイスへのアクセスを参照してください。

手順

ステップ 1 **パーソナルディレクトリ**タブを選択します。

ステップ 2 このタブでは、次の操作を行うことができます。

- **パーソナルディレクトリに追加** をクリックして、個人アドレス帳に連絡先を追加する。

  連絡先エントリに最大 3 個の電話番号を追加できます。

- 連絡先の情報を編集するには、既存の連絡先エントリの**編集** をクリックします。
- 連絡先エントリの電話番号にスピードダイヤルのインデックスを割り当てるには、**割り当て** をクリックします。
- 既存の連絡先エントリを選択し、**連絡先の削除** をクリックして連絡先を削除します。

ステップ 3 [すべての変更の送信（Submit All Changes）] をクリックします。

名前の逆引きルックアップを有効にする

着信コール、発信コール、電話会議、コール転送で、番号の名前を逆引きルックアップ検索をします。電話機がサービス プロバイダー ディレクトリ、通話履歴、または連絡先を使用して名前を検索できない場合、名前の逆引きルックアップが機能します。名前の逆引きルックアップには、有効な LDAP ディレクトリ設定または XML ディレクトリ設定が必要です。

名前の逆引きルックアップでは、電話機の外部ディレクトリを検索します。検索が成功すると、コールセッションと通話履歴に名前が表示されます。同時に複数のコールがある場合、名前の逆引きルックアップでは 1 つ目の電話番号と一致する名前が検索されます。2 つ目のコールが接続または保留されたとき、名前の逆引きルックアップでは2つ目のコールに一致する名前が検索されます。

名前の逆引きルックアップは、デフォルトで有効になっています。

名前の逆引きルックアップでは、次の順序でディレクトリが検索されます。

1. 電話連絡先

2. コール履歴
3. LDAP ディレクトリ
4. XML ディレクトリ

（注） 電話機は次の形式を使用して XML ディレクトリを検索します。
`directory_url?n=incoming_call_number`

例：サードパーティ製サービスを使用するマルチプラットフォーム フォンの場合、電話番号（1234）の検索クエリの形式は次のとおりです。
`http://your-service.com/dir.xml?n=1234`

始める前に

- 名前の逆引きルックアップを有効化または無効化するには、以下のいずれかのディレクトリを設定します。
  - LDAP 社内ディレクトリ
  - XML ディレクトリ
- 電話管理の Web ページにアクセスします。電話機 ウェブインターフェイスへのアクセスを参照してください。

手順

ステップ 1 **[音声（Voice）]** > **[電話（Phone）]** を選択します。

ステップ 2 **補足サービス**エリアで、**電話機の逆引きルックアップサービス**を **はい（Yes）**に設定して、この機能を有効にします。

次の形式で文字列を入力することによって、設定ファイル (cfg .xml) でこのパラメータを設定することもできます。

```
<Reverse_Phone_Lookup_Serv ua="na">Yes</Reverse_Phone_Lookup_Serv>
```

有効値は、 はい|いいえです。デフォルト値は、いいえです

ステップ 3 [すべての変更の送信（Submit All Changes）] をクリックします。